

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●岡山大学医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻

「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科では、平成19年度より、4年生の博士課程一般コースを、臨床技術や臨床決断能力を教育し、臨床を真剣に科学する「臨床専門医コース」と、優れた国際レベルの基礎研究者を養成する「一般コース」に分割し、各々のコースの目的に従って大学院の実質化を進めることになった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本臨床専門医コースで取得できる学位は、あくまでも一般コースと同等の博士(医学・歯学)である。すなわち、臨床専門医コースは、臨床家として国民に貢献できる専門医レベルの技術と知識、態度を育てることが目的であるが、研究マインドのない臨床家を育てることではない。あくまでも、博士としての学識と研究マインドを醸成するために、学位論文執筆のための研究と論文執筆を後半の学年で効率良く行うこととする。また、既存の分野を超えた横断的な専門領域をコースワークでカバーしようと試みた点も特色の1つである。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

臨床専門医養成コースを開設した結果、研修医ショックと呼ばれた大学院生の急激な充足率低下時期を乗り越えて、定員充足率がV字回復した。特に歯学系では、平成18年14名(39%)と低迷していたが、平成19年35名(97%)、平成20年36名(100%)、平成21年41名(114%)、平成22年29名(80%)と回復した。医学系は、平成18年111名(121%)、平成19年79名(85%)、平成20年96名(104%)、平成21年82名(89%)、平成22年82名(89%)と推移した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《医療系》

●岡山大学医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻

「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本取組では、多忙な学生や指導医の利便性を向上し、コミュニケーション環境を改善するために「電子ポートフォリオシステム」を応用した。このシステムにより、学生は大学病院にいても、学外の連携教育研究施設にいても、診療科の枠を超えた複数の指導教員等と逐次意見交換することができる。指導教員は、学生の到達度を電子的に記録されたディスカッションや患者立脚型アウトカム、画像データから容易に判断できる。学務担当者は、そのデータベースにアクセスすることで、学生の授業出席状況や単位取得状況が簡単に管理できる。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

電子ポートフォリオシステムに加えて、学務支援システム、教員支援システムを構築し、事務系職員や教員の作業効率を向上させるための大学院機能の電子化を積極的に進めた。また、研究方法論基礎と研究方法論応用の授業内容については、授業風景をビデオでプレビューする機能を電子ポートフォリオシステムに加えることにより、学生の科目選択を助けるための情報提供を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

電子ポートフォリオシステムが、平成21年度8月より歯学系一年次学年全員に解放され、稼働を開始した。本システムは1つのデータベースに向かって、学生が学修内容や研究活動を自己入力(申告)し、後にそのデータベースに教員や学務担当事務が各自のパソコンからアクセスして採点や承認作業を行うというものである。これまで、紙ベースで行われてきた学務の作業を電子化し、教員や学務担当者の省力化や相互の意見交換を容易にするという点で非常に先進的である。